

新型コロナウイルス感染症サーベイランス週報: 発生動向の状況把握

2022年第45週(2022年11月7日~2022年11月13日; 11月14日現在)*

COVID-19 weekly surveillance update:
epidemiologic situational awareness
- Week 45, as at November 14, 2022

*一部、第46週の情報を含む

本週報は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況を、時・人・場所の項目を用いて記述し、複数の指標を精査し、全国的な観点からまとめています。「トレンド(傾向)」と「レベル(水準)」を明記し、疫学的な概念を用いて、状況把握の解釈を週ごとに行っています。解釈については、注意事項にも記載していますが、特に直近の情報については、過小評価となりうる場合などがあるので十分にご注意下さい。国や地方自治体の COVID-19 対策に従事する皆様とともに、広く国民の皆様へ COVID-19 に関する情報を提供し、還元する事を目的としております。COVID-19 対策・対応の参考資料として活用していただければ幸いです。

2022年9月26日より全国で4類型のみ発生届による全数報告と全数把握に切り替わったことに留意する必要があります。

🗨️今週の主なコメント	1
1. 全国の状況	4
1.1. 全国の新規症例報告数	4
1.2. 全国の検査数、新規陽性者数、陽性率	5
1.3. 全国の入院者数、重症者数、死亡者数	6
1.4. 全国の年齢群別新規症例報告数	11
2. 地域別の状況	13
2.1. 地域別の新規症例報告数	13
2.2. 地域別別の重症者数	16
HER-SYSに関する注意点	18
解釈に関する考え	18
参考サイト	18

今週の主なコメント

全国: 国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数(再陽性例を含む)を積み上げた情報によると、2022年11月14日0時現在、新型コロナウイルス感染症の症例報告数は22,921,314例、死亡者数は47,579例と報告されている。第45週は新規症例報告数501,589、死亡者数552であり、前週と比較して新規症例報告数は100,295人増加、死亡者数は161人増加した。

第45週は多くの指標で上昇を認めた。第45週(11月7~13日)は、第44週(10月31日~11月6日)と比べて、検査数(第45週:1,077,306、第44週:718,771)、新規陽性者数(第45週:501,589、第44週:401,294)、検査陽性率(第45週:46.6%、第44週:55.8%)であり、検査数、新規陽性者数は増加、検査陽性率は減少した(遅れ報告を考慮した11月7日現在の第44週の値との比較においても検査陽性率は減少した)。検査数と検査陽性者数は増加したが、検査陽性率が減少し、解釈困難なパターンであった。

より重症な入院例の指標は、少し過去の罹患を反映する傾向があるが、軽症例・無症候例と比較して、受診・検査行動の変化の影響を受けにくい。新規に届出された診断時中等症以上は 551 例、診断時重症の症例は 142 例、であった。前週と比較して、中等症以上、および重症の症例はともに増加した。遅れ報告を考慮し、11月7日現在の第 44 週の値と比較した場合も、直近の週の中等症以上、および重症例は、増加した。なお、年齢群別では、中等症以上の症例においては、0~4歳と20歳以上の群で増加した。重症の症例では、20歳以上の群で増加した。レベルとしては、中等症以上・重症の症例ともに、第 7 波のピークより低いレベルで推移している。また、すべての年齢群でも、第 7 波のピークレベルを大きく下回っている。新規の入院例においては、第 41~43 週は微増、第 44、45 週と増加し、5~9 歳と 10~19 歳以外の年齢群でも増加がみられた。

全国の入院治療等を要する COVID-19 の入院患者数の推移については、第 39~41 週は微減傾向で第 42~43 週は横ばいであったが、第 44 週から微増傾向であった。入院中の重症者数においては、第 39 週は減少し、第 40~43 週は横ばいであったが、第 44 週から微増傾向であった。レベルとしては、第 7 波のピークレベルを下回っている。

NPO 法人日本 ECMOnet が集計する Extracorporeal Membrane Oxygenation(ECMO)・人工呼吸器装着数においては、開始日で集計されている週ごとのそれぞれの開始数を公表している。人工呼吸器の開始数は、第 35 週以降減少傾向であったが、第 45 週は微増した。ECMO の開始数は、第 35 週以降減少し、第 39~45 週はほぼ毎週 0 例であった。新規の人工呼吸器、ECMO の開始数は、いずれも低いレベルで推移している。ECMO 装着中の全国の COVID-19 患者数においては、微増微減はあるものの、第 31 週から緩やかな微減傾向である。入院中の COVID-19 重症例における人工呼吸器装着中の患者数においては、第 32 週頃から微減傾向であったが第 45 週は微増となった。ECMO/人工呼吸器装着数の最新の状況と詳細に関しては、NPO 法人日本 ECMOnet の <https://crisis.ecmonet.jp/> を参照いただきたい。

新規症例の発生から死亡までは、長いタイムラグが想定される。死亡者数においては、第 36~41 週は減少し、第 41 週以降は微増微減を繰り返していたが、第 44 週と 45 週は増加した。直近 5 週間では、第 41 週は 386 例、第 42 週は 404 例、第 43 週は 362 例、第 44 週は 391 例、第 45 週は 552 例であった。

第 45 週の新規症例報告数のレベルは、人口 10 万対 403 人であった。人口あたり年齢群別新規症例報告数は、10 代が最多、0~4 歳が最少であった。なお、新規症例報告数が最も多い年齢群も、10 代であった。小児と 10 代の傾向としては、0-4 歳、5-9 歳、10 代の人口 10 万対新規症例方向数はそれぞれ 448、703、780 (それぞれ報告された全症例の 4.2%、7.1%、17.2%) であった。

第 45 週の新規報告数の前週比は 1.24、年齢群ごとの前週比は、は中央値:1.27、範囲:1.13~1.35 倍とすべての年齢群で新規症例報告数は増加した。直近 5 週間の前週比は、第 41 週は 0.81、第 42 週は 1.07、第 43 週は 1.22、第 44 週は 1.43、第 45 週は 1.24 であった。人口 10 万対新規症例報告数の前週差は、第 45 週は 20 代で最も多く、131 人の増加(408 から 539 人)を認め、次に 0~4 歳の年齢群で 97 人の増加を認めた。他の年齢群では、人口 10 万対 41 人から 91 人の増加を認めた。

地域別:第 45 週の人口 10 万対新規症例報告数のレベルとしては、北海道で最も高く 1025 人と第 7 波のレベルを上回っている。次に東北の 635 人で、他の地域は 500 人を下回っている。全症例の 46%を関東と近畿が占めている。関東は、第 41 週は 34%、第 42、43 週は 32%、第 44 週は 34%、第 45 週は 35%であった。近畿は、第 41~42 週は 15%、第 43 週は 14%、第 44 週 13%、第 45 週は 11%であった。新規症例報告数の前週比は、すべての地域で 1 を上回った。最も前週比が高かったのは関東、次いで北海道と東北であった。人口 10 万対新規症例報告数の前週差としては、第 45 週では、人口 10 万対 77 人と増加した(北海道で 208 人の増加、次いで東北地方で 126 人の増加、北陸地方で 92 人の増加)。

地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例は、第 45 週は北海道、関東、北陸、東海、

近畿、中国、四国地方で増加、沖縄県で微増、東北と九州地方で減少した。診断時重症であった症例は、北海道、東北、北陸、中国地方で増加、関東、近畿、四国、沖縄県で微増、東海と九州地方で減少であった。中等症以上、重症の症例はレベルとしては、すべての地域で第 7 波のピークレベルを下回っているが、微増・増加した地域を複数認めており、引き続き動向を注視する必要がある。

まとめ:第 45 週は、新規症例報告数は増加し、全ての年齢群と地域で増加した。新規の入院例、中等症以上および重症の症例においても増加した。今後も複数の指標を用いて、状況・疫学の変化を迅速に捉え、リスク評価と適切な対応に繋げる事が重要である。

地域	レベル*	トレンド
北海道	高	増加
東北	高	増加
関東	高	増加
北陸	高	増加
東海	高	増加
近畿	高	増加
中国	高	増加
四国	高	増加
九州	高	増加
沖縄県	高	増加

*レベル:人口 10 万対新規症例報告数が 15 未満は「低」、15～24 人は「中」、25 人以上は「高」と分類。トレンド:前週の新規症例報告数との比較

～地域の定義～

東北: 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東: 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県

北陸: 新潟県、富山県、石川県、福井県

東海: 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿: 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国: 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国: 徳島県、香川県、愛媛県、高知県

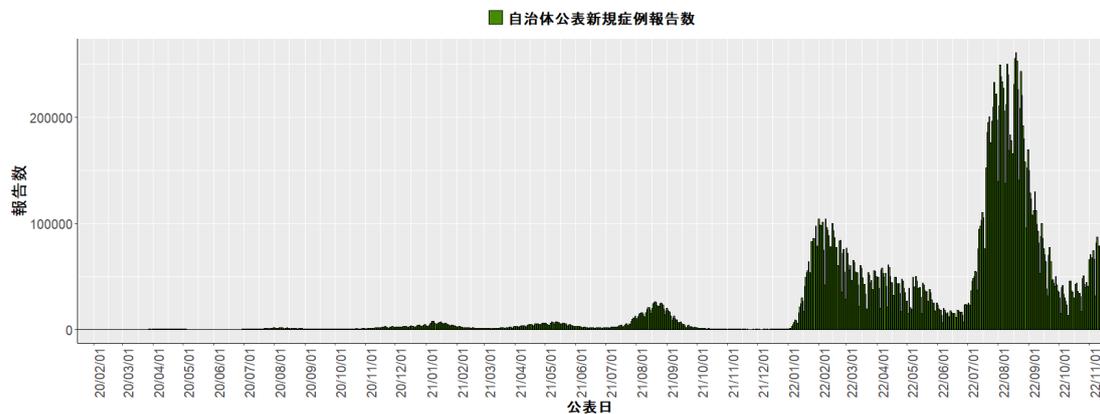
九州: 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

1. 全国の状況

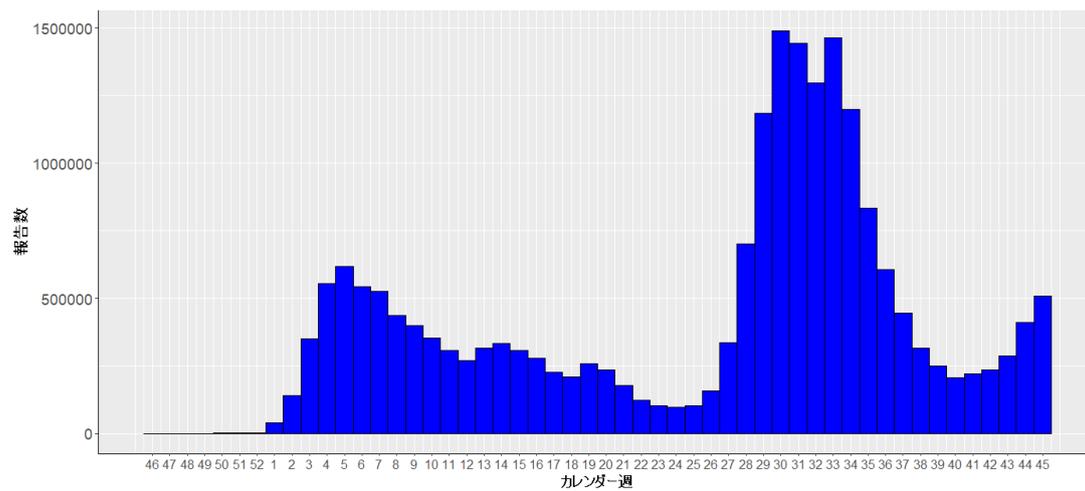
1.1. 全国の新規症例報告数

図1:全国の流行曲線:(A)公表日別(全期間)、(B)公表週別(2021年11月15日~2022年11月13日)

(A)



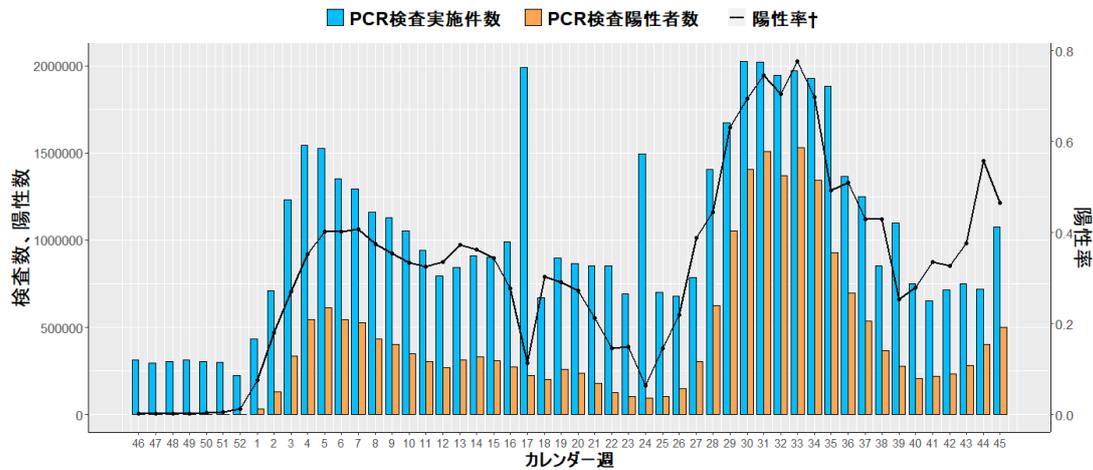
(B)



出典:厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>), HER-SYS(11月14日現在)

1.2. 全国の検査数、新規陽性者数、陽性率

図 2: 週別 PCR 検査数、PCR 陽性者数、陽性率[†](2021 年 11 月 15 日~2022 年 11 月 13 日)



出典:厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(11月14日現在)

[†]陽性率は正確には検査数と陽性者数が対応せず、割合でない可能性があるため、正確には比である。陽性者数:各自治体がプレスリリースしている個別の事例数(再陽性例を含む)を積み上げて算出した。検査数:各自治体がウェブサイト公表している数等を積み上げたものである。基本的には検査実施人数だが、一部自治体においては人数ではなく件数を計上している。また、計上している検査の種類(行政検査、保険適用検査、民間検査機関による検査等)も自治体によって異なる可能性がある。

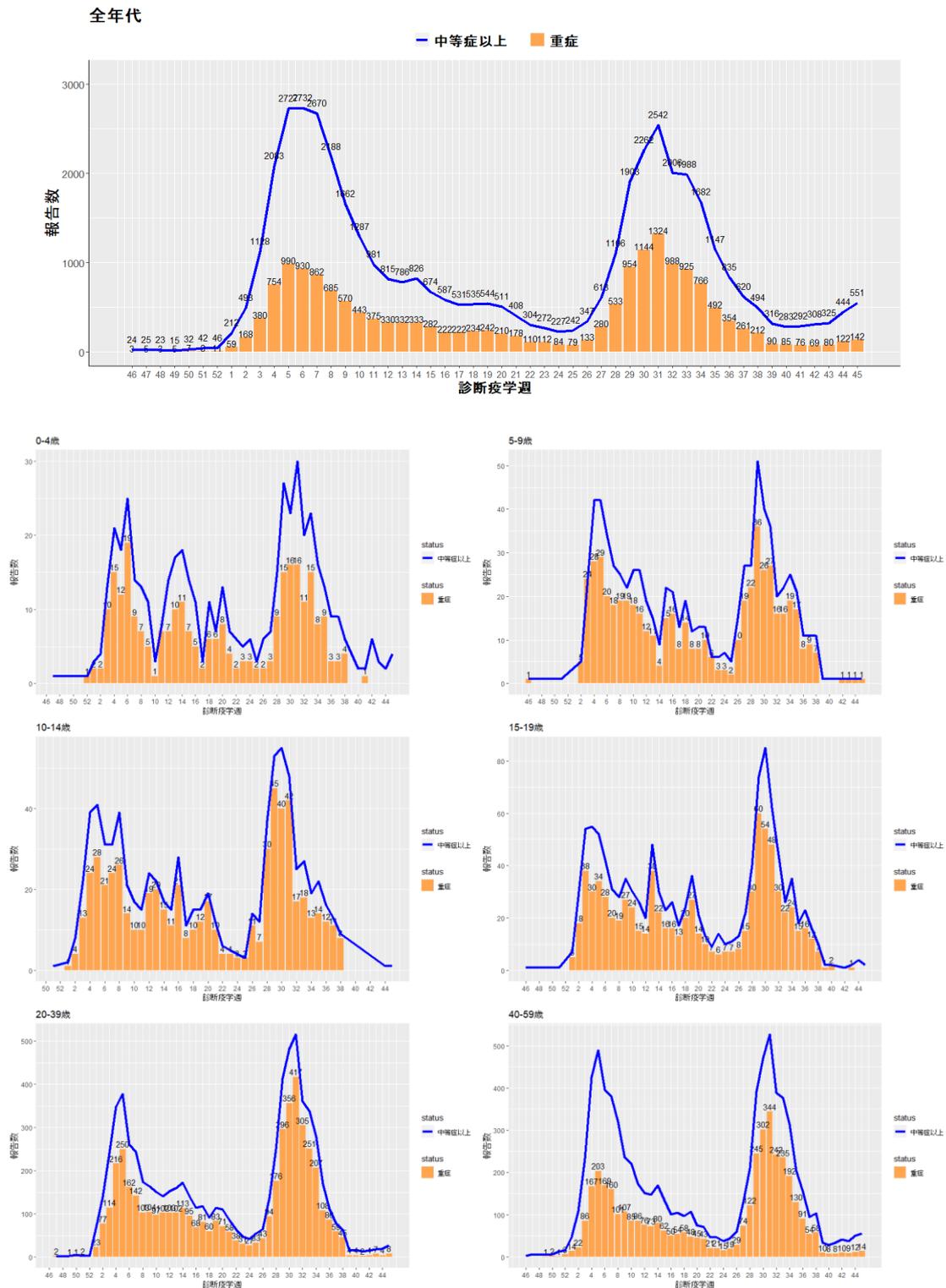
注)2022年第17週に、100万件以上の検査を報告した県があるため、解釈に注意が必要である。

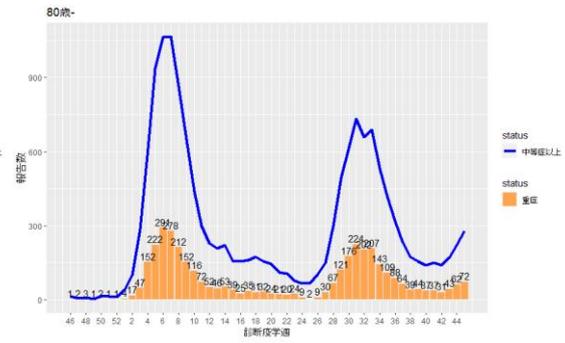
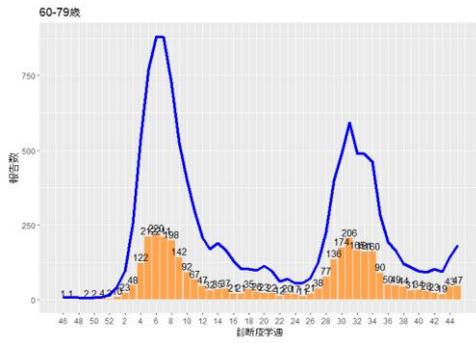
注)2022年第24週に、約80万件の検査を報告した県があるため、解釈に注意が必要である。

1.3. 全国の入院者数、重症者数、死亡者数

図 3:(A)新規に届出された診断時中等症以上、重症であった症例[†](診断週、年齢群別)、(B)届出された新規入院症例(報告週、年齢群別)、(C)入院中の入院例・重症例と新規死亡例(報告日別)、(D)新規症例と死亡例(報告週別)(2021年11月15日~2022年11月13日)

(A)



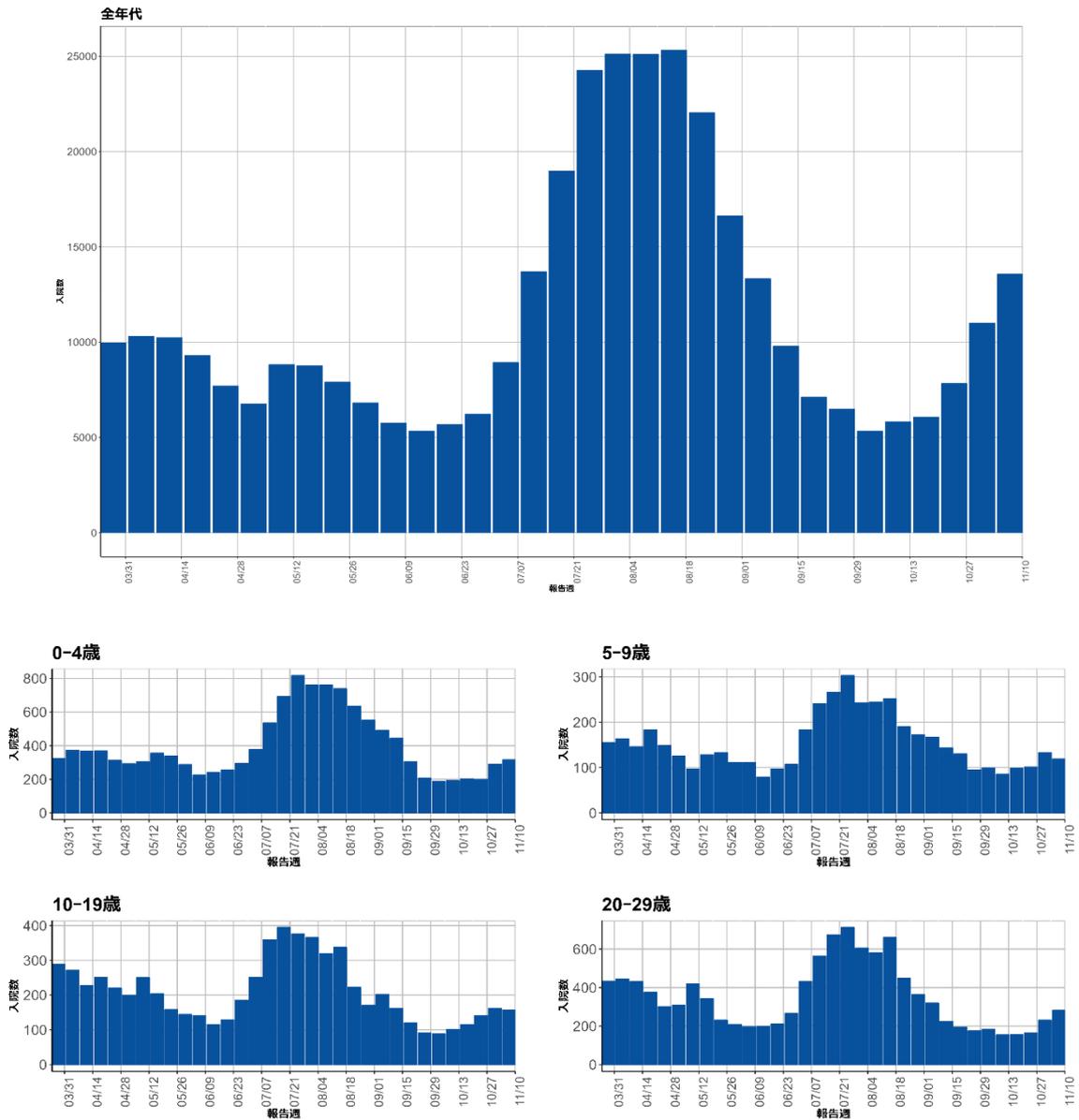


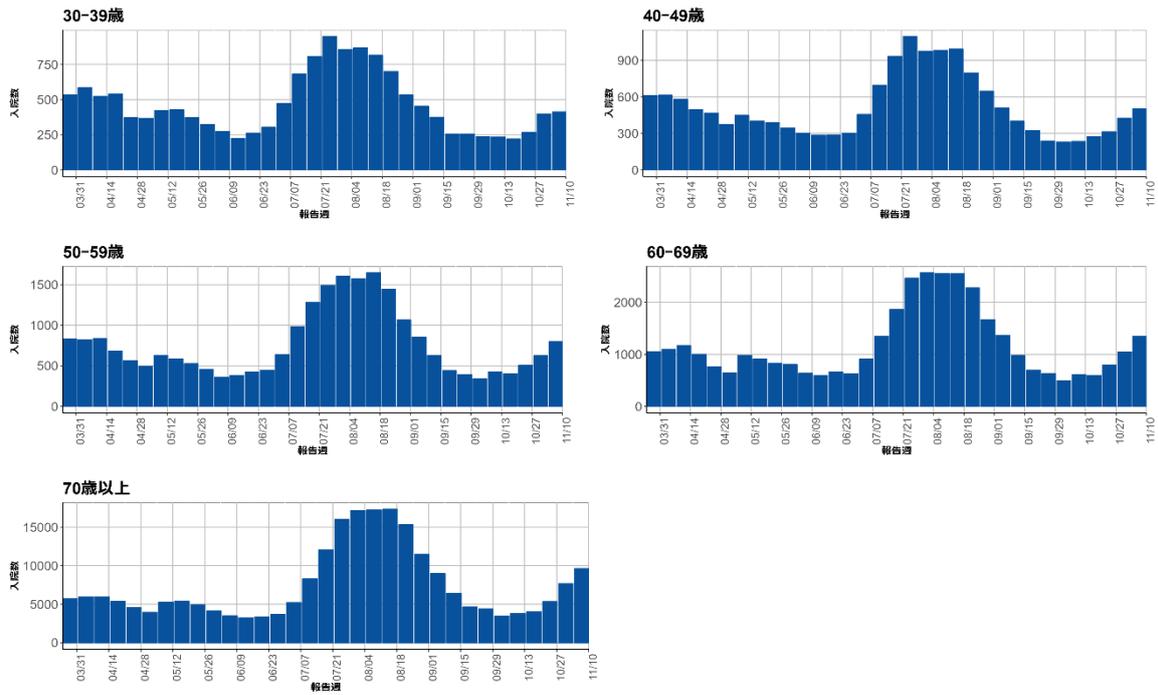
出典:HER-SYS(11月14日現在)

注)年齢群別の流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要である。

注)2022年9月26日以降は、4類型に該当する陽性者から集計しているため、従来の報告数全体における中等症・重症の集計とは異なることに注意が必要である。

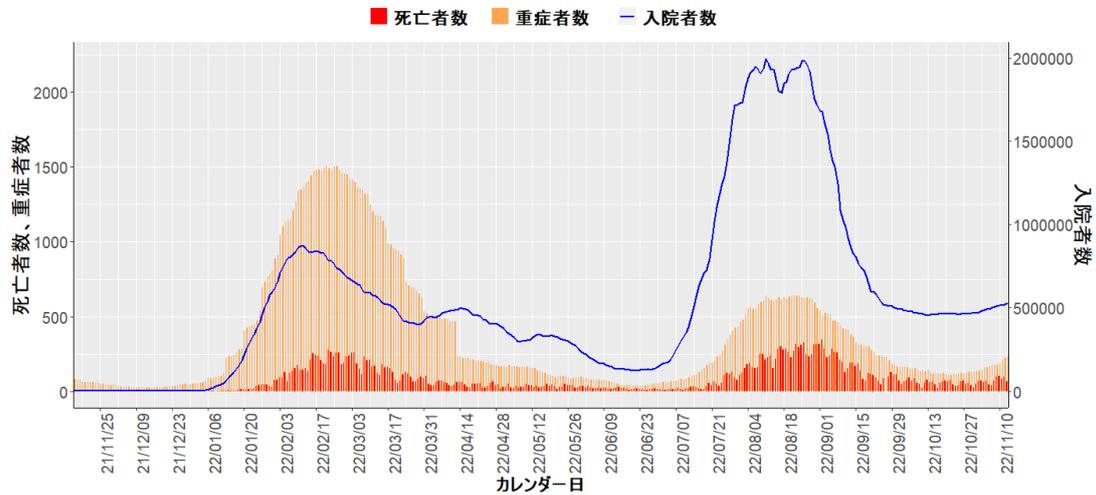
(B)





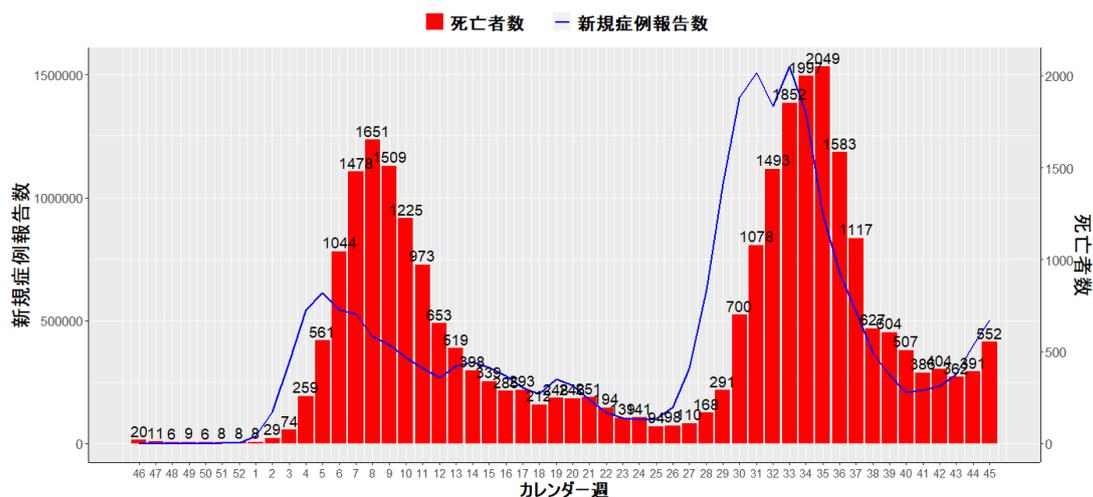
出典:HER-SYS(11月14日現在)
 注)年齢群の流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要

(C)



出典:厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(11月14日現在)
 注)集計方法の見直し:大阪府は令和4年4月14日公表分から独自基準へと変更し集計を行った。

(D)



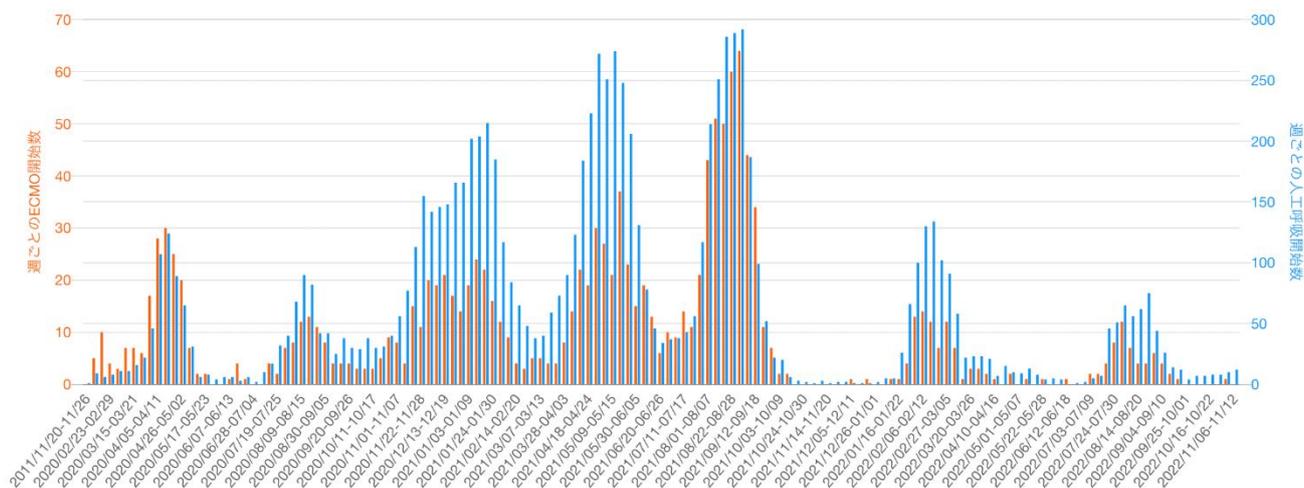
出典:厚生労働省(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)(11月14日現在)

†HER-SYS における中等症以上の定義は発生届で診断時に、「肺炎像」「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である(「肺炎像」ありのみも含むため、臨床的に軽症である症例も含まれる可能性がある)。重症の定義は発生届で診断時に、「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である。

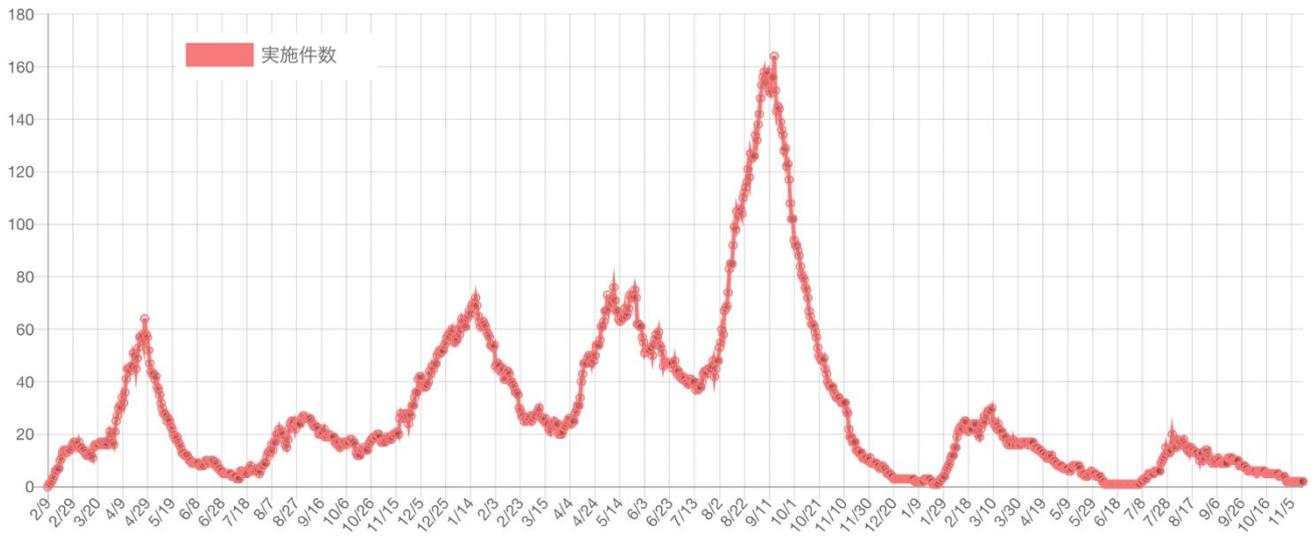
注) 2022年第35週に、過去に遡って死亡者56例が計上されているため解釈に注意が必要

図 4:全国の(A)週ごとの Extracorporeal Membrane Oxygenation(ECMO)、人工呼吸器の開始数と、日ごとの入院中の(B)ECMO 装着中の全国の COVID-19 患者数、(C)人工呼吸器装着数(2020年2月9日~2022年11月12日)

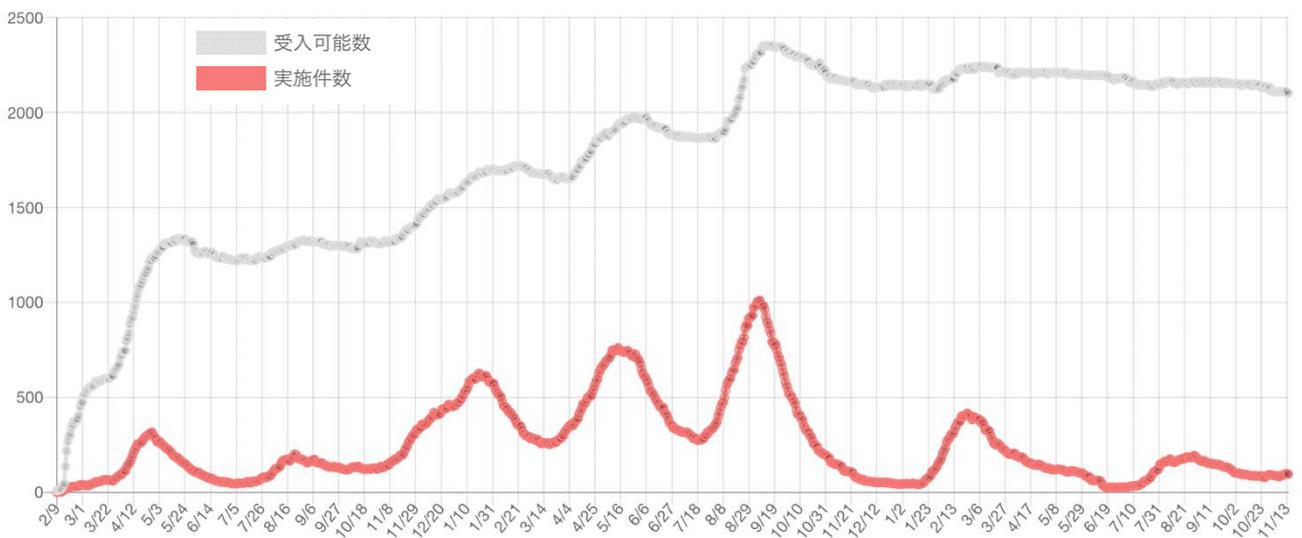
(A) 開始日で集計されている週ごとの ECMO と人工呼吸器の開始数(直近の週は 11 月 6 日 ~ 11 月 12 日:ECMO 0 例[前週 1 例]、人工呼吸器 12 例[前週 10 例])



(B) ECMO 装着中の全国の COVID-19 患者数:11月14日(2例)、11月7日(2例)



(C) 人工呼吸器装着数装着中の全国の COVID-19 患者数(ECMO 含む):11月14日(96例)、11月7日(83例)



出典:NPO 法人日本 ECMOnet (<https://crisis.ecmonet.jp/>)(11月14日現在)

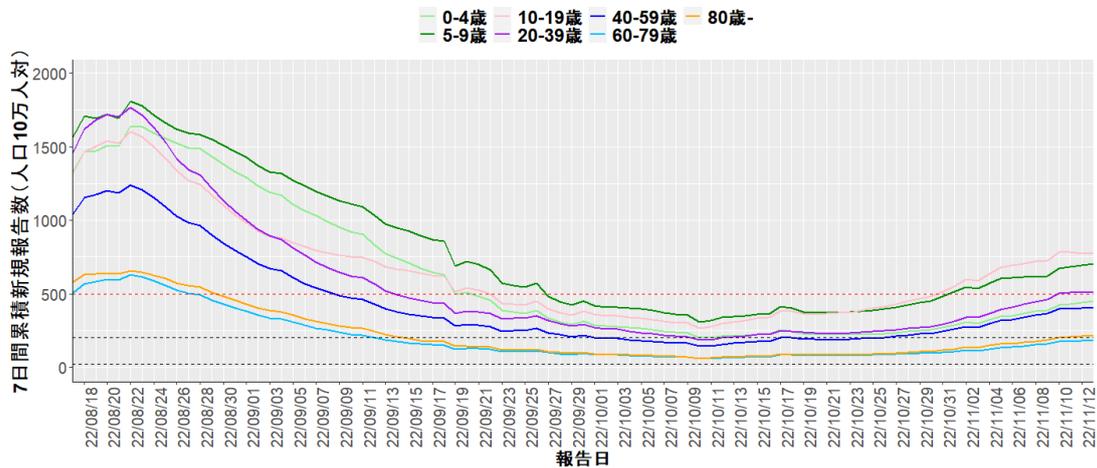
注)データは、閲覧日によって微増微減する場合がある。

1.4. 全国の年齢群別新規症例報告数

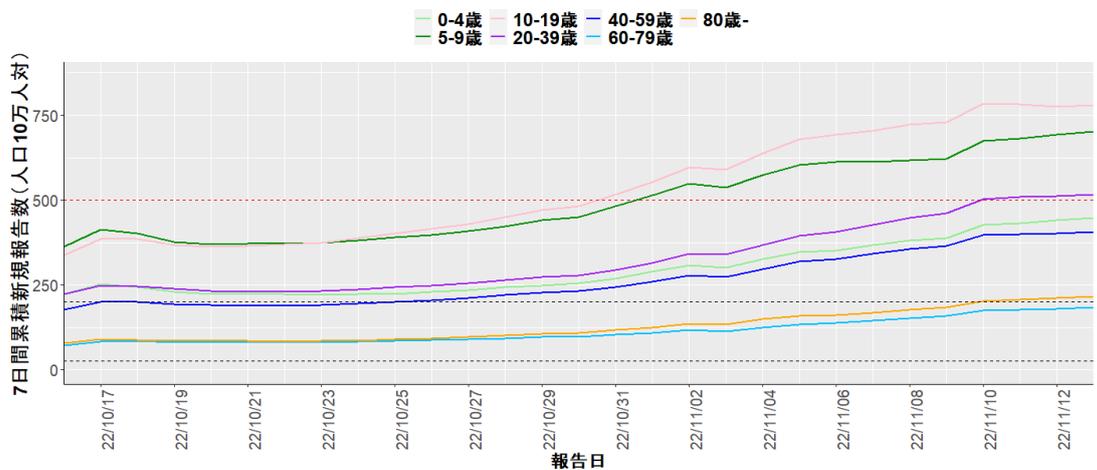
図 5: 直近 3 か月間の年齢群別の新規症例報告数(A)直近 3 ヶ月と(B)直近 1 ヶ月

黒点線は人口 10 万対新規症例報告数が 25 および 200 人、赤点線は人口 10 万対新規症例報告数が 500 人を示す。

(A)



(B)



出典:HER-SYS(11月14日現在)

注)2022年9月26日以降は年齢群別の陽性者数を集計する全数把握に切り替わったため、その集計値を用いている。全例において報告日を用いている。

注)2022年9月26日以前は、診断日が入力されていない場合のみ、報告日を用いている。

表 1:(A) 2022 年第 45 週の年齢群別の新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数、前週の新規症例報告数と前週比、(B) 遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数の前週との差(同時点とは、11 月 14 日現在の第 45 週の値と 1 月 7 日現在の第 44 週の値との比較)

(A)

年齢群	新規症例報告数 (人)	割合 (%)	人口 10 万対 新規症例報告数	前週新規症例報告数 (人)	前週比
0-4 歳	21,328	4.2	448.4	16,715	1.28
5-9 歳	35,812	7.1	702.5	31,212	1.15
10 代	87,156	17.2	780.1	77,333	1.13
20 代	68,096	13.4	539.2	51,500	1.32
30 代	70,891	14.0	495.8	57,927	1.22
40 代	81,845	16.1	441.9	66,227	1.24
50 代	59,610	11.7	366.1	47,194	1.26
60 代	33,476	6.6	206.2	25,541	1.31
70 代	25,338	5.0	159.1	18,763	1.35
80 代以上	24,297	4.8	216.0	18,141	1.34
計	507,849	100.0	402.5	410,553	1.24

(B)

年齢群	当該週 新規症例 報告数(人)	前週 新規症例 報告数(人)	当該週 人口 10 万対 新規症例報告数	前週 人口 10 万対 新規症例報告数	当該週 症例報告数の 前週との差	人口 10 万対 該当週症例報告数の 前週との差
0-4 歳	21,328	16,707	448.4	351.3	4,621	97.1
5-9 歳	35,812	31,203	702.5	612.1	4,609	90.4
10 代	87,156	77,306	780.1	691.9	9,850	88.2
20 代	68,096	51,497	539.2	407.8	16,599	131.4
30 代	70,891	57,905	495.8	405.0	12,986	90.8
40 代	81,845	66,196	441.9	357.4	15,649	84.5
50 代	59,610	47,175	366.1	289.8	12,435	76.3
60 代	33,476	25,526	206.2	157.3	7,950	48.9
70 代	25,338	18,750	159.1	117.7	6,588	41.4
80 代以上	24,297	18,131	216.0	161.2	6,166	54.8
計	507,849	410,396	402.5	325.3	97,453	77.2

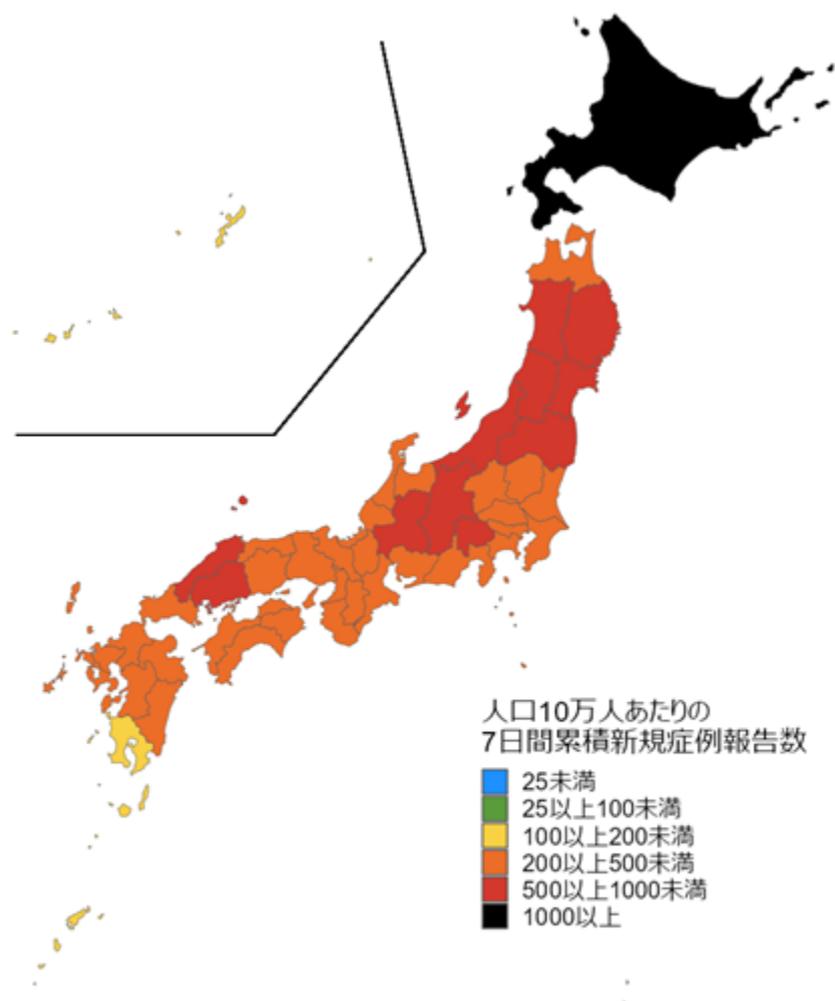
出典:HER-SYS(11 月 14 日現在)

注)2022 年 9 月 26 日以降は年齢群別の陽性者数を集計する全数把握に切り替わったため、その集計値を用いている。

2. 地域別の状況

2.1. 地域別の新規症例報告数

図 6: 都道府県別新規症例報告数地図



出典:HER-SYS(11月14日現在)

表 2:(A)2022 年第 45 週の地域別の新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数、前週の新規症例報告数と前週比、(B)遅れ報告によるバイアスを考慮した、同時点での新規症例報告数、人口 10 万対新規症例報告数の前週との差(同時点とは、11 月 14 日現在の第 45 週の値と 11 月 7 日現在の第 44 週の値との比較)

(A)

地域ブロック	HER-SYS				
	当該週症例報告数 (人)	割合 (%)	当該週人口 10 万対 症例報告数	前週症例報告数 (人)	前週比
北海道	53,808	10.6	1,024.9	42,916	1.25
東北	55,082	10.8	635.4	44,156	1.25
関東	177,597	35.0	383.4	138,855	1.28
北陸	25,600	5.0	494.9	20,905	1.22
東海	56,774	11.2	379.4	46,492	1.22
近畿	57,772	11.4	281.4	51,403	1.12
中国	33,984	6.7	466.7	27,427	1.24
四国	12,541	2.5	337.0	10,558	1.19
九州	32,691	6.4	255.3	25,982	1.26
沖縄県	2,059	0.4	141.7	1,906	1.08
計	507,908	100.0	402.6	410,600	1.24

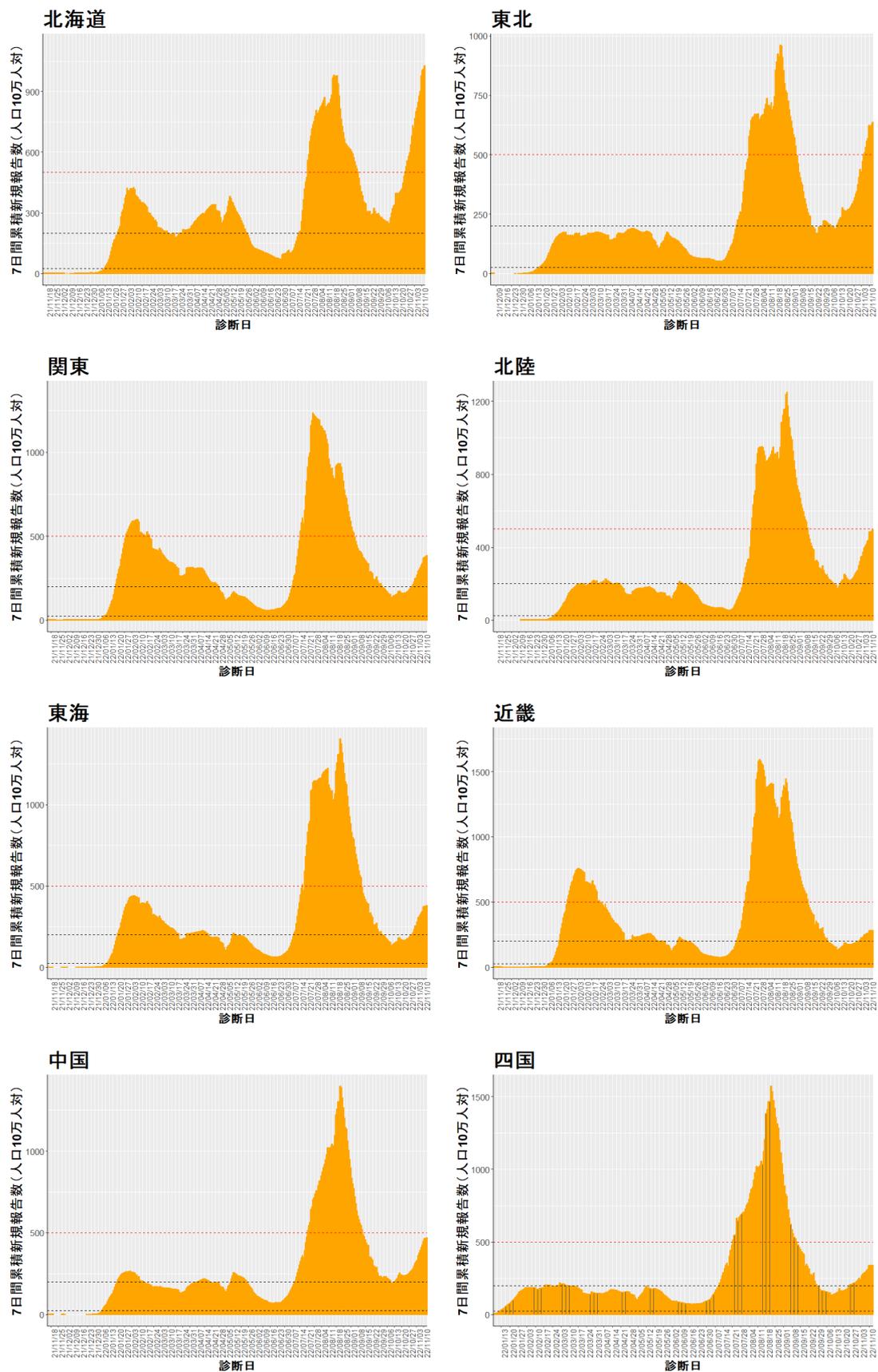
(B)

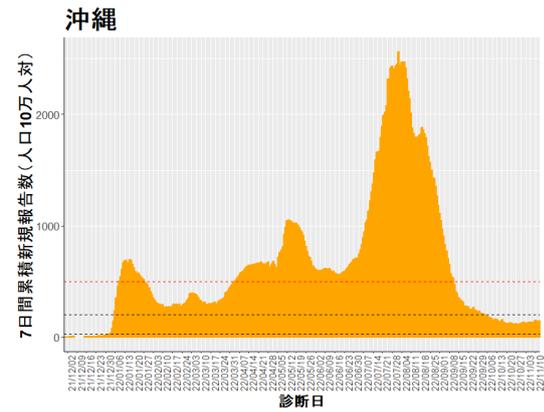
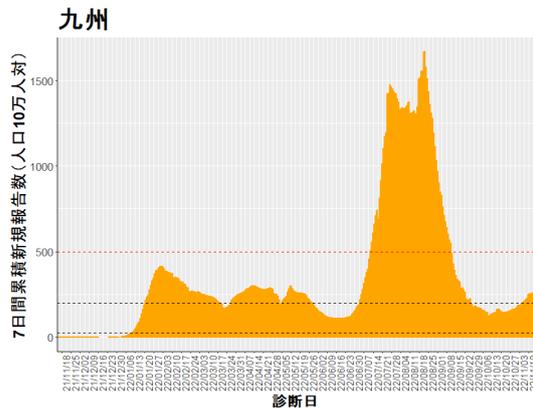
地域ブロック	HER-SYS					
	当該週症例 報告数(人)	前週症例 報告数(人)	当該週新規症例報告数 人口 10 万当たり	前週新規症例報告数 人口 10 万当たり	当該週症例報告数の 前週との差	人口 10 万対当該週 症例報告数の前週との差
北海道	53,808	42,904	1,024.9	817.2	10,904	207.7
東北	55,082	44,147	635.4	509.3	10,935	126.1
関東	177,597	138,815	383.4	299.7	38,782	83.7
北陸	25,600	20,868	494.9	403.4	4,732	91.5
東海	56,774	46,480	379.4	310.6	10,294	68.8
近畿	57,772	51,371	281.4	250.3	6,401	31.1
中国	33,984	27,424	466.7	376.6	6,560	90.1
四国	12,541	10,557	337.0	283.7	1,984	53.3
九州	32,691	25,972	255.3	202.8	6,719	52.5
沖縄県	2,059	1,906	141.7	131.2	153	10.5
計	507,908	410,444	402.6	325.3	97,464	77.3

出典:HER-SYS(11月14日現在)

図 7:地域別の新規症例報告数(2021年11月15日~2022年11月13日)

黒点線は人口10万対新規症例報告数が25及び200人、赤点線は人口10万対新規症例報告数が500人を示す。





出典:HER-SYS(11月14日現在)

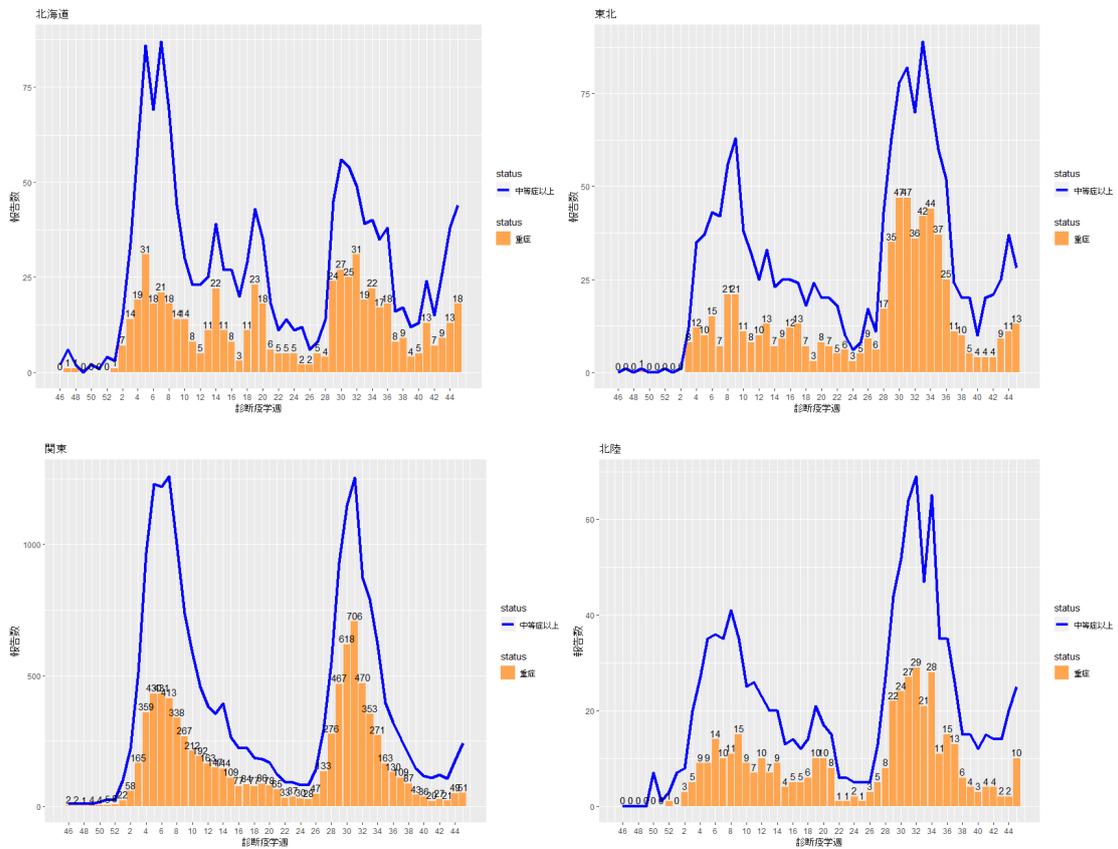
注)地域別の流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要。

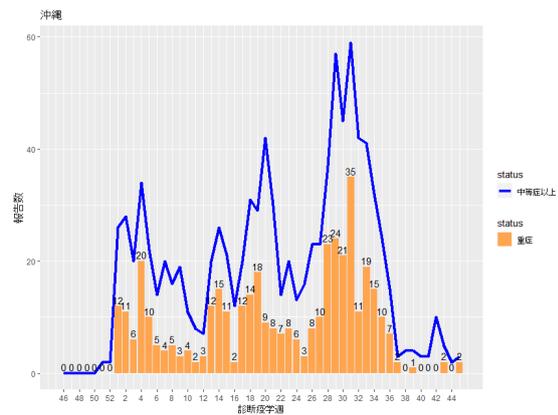
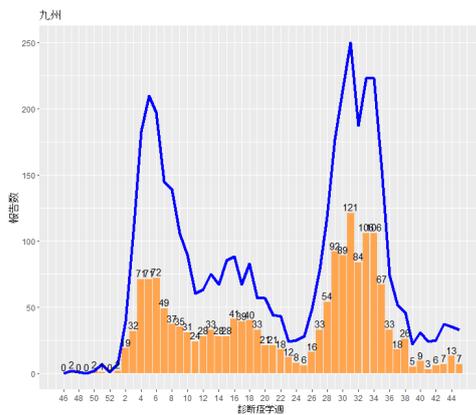
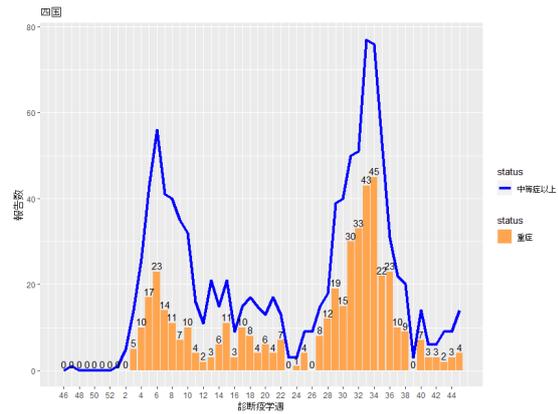
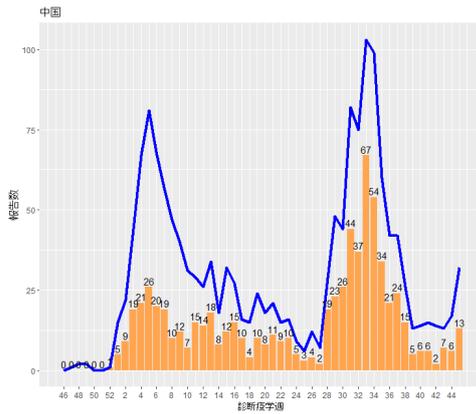
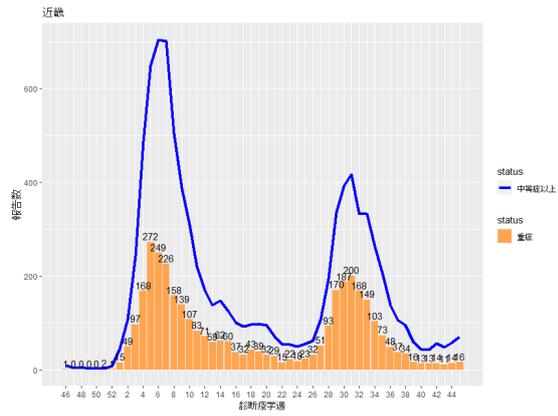
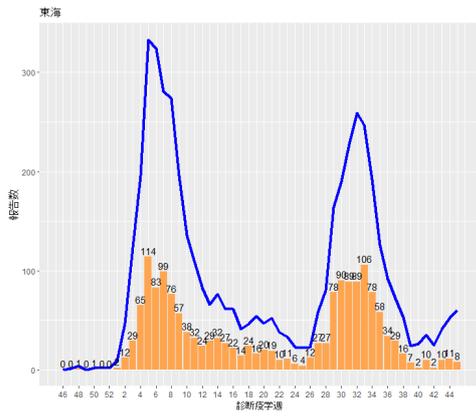
注)2022年8月4日以降、重症化リスクの低い患者(65歳以上等の患者以外)の発生届では診断日の入力が省略可能となったため、診断日が入力されていない場合は報告日を用いている。2022年9月26日以降は報告日を用いている。

注)2022年9月26日以降は年齢群別の陽性者数を集計する全数把握に切り替わったため、集計値を用いている。

2.2. 地域別の重症者数

図 8:地域別の新規に届出された診断時中等症以上であった症例と重症であった症例[†](診断週)





出典:HER-SYS(11月14日現在)

†HER-SYSにおける中等症以上の定義は発生届で診断時に、「肺炎像」「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である(「肺炎像」ありのみも含むため、臨床的に軽症である症例も含まれる可能性がある)。重症の定義は発生届で診断時に、「重篤な肺炎」「多臓器不全」「ARDS」のいずれかにチェックされているかどうか、または死亡例である。

注)地域ブロックの流行曲線ごとに縦軸のスケールが異なることに注意が必要である。

注)直近の週は過小評価されている場合がある。

注)2022年9月26日以降は、4類型に該当する陽性者から集計しているため、従来の報告数全体における中等症・重症の集計とは異なることに注意が必要である。

HER-SYSに関する注意点

- ◆ HER-SYS データでは保健所受理の有無、自治体確認の有無を確認できないため、解釈には注意が必要である。
- ◆ 報告日から HER-SYS 入力日までの遅れの頻度は自治体や地域の流行状況によって異なることに注意が必要である。
- ◆ 2022年9月2日以降、発生届の報告対象を限定する緊急避難措置を実施している自治体があるために HER-SYS 報告数が過小になっていることに留意する必要がある。
- ◆ 2022年9月26日以降は年齢群別の陽性者数を集計する全数把握に切り替わったため、その集計値を用いている。

解釈に関する考え

サーベイランスアーチファクト(バイアス)も考慮し、トレンドとレベルの解釈をより可能にするために以下を評価する

- ◆ 検査数・陽性率
 - ・ 検査実施状況を考慮した上での陽性数の解釈が可能である。
- ◆ 限定法:新規の入院例、中等症・重症例に限定
 - ・ 入院・中等症・重症:遅れの時間差はあるが、軽症例・無症候例と比較して、受診行動、検査対象の変化によるサーベイランスバイアスをより受けにくい。

参考サイト

国内の発生状況など

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1/

データからわかるー新型コロナウイルス感染症情報

<https://covid19.mhlw.go.jp/>

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 関連情報ページ

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/covid-19.html>

NPO 法人日本 ECMOnet

<https://crisis.ecmonet.jp/>

自治体・医療機関向けの情報一覧(事務連絡等)(新型コロナウイルス感染症)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00088.html